



（第 1 面）

産業廃棄物処理計画書

令和 7 年 5 月 16 日

茨城県知事 大井川 和彦 殿

提出者

住 所 茨城県稲敷郡阿見町阿見 4041
氏 名 三菱商事ライフサイエンス(株)
土浦工場
工場長 森 敏彦
電話番号 029-888-8001

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 12 条第 9 項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	三菱商事ライフサイエンス(株)土浦工場
事業場の所在地	茨城県稲敷郡阿見町阿見 4041
計画期間	令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 3 1 日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	食料品製造業
②事業の規模	1 9 4 2 1 t （当年製造量）
③従業員数	3 9 6 人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙 1 の通り

（日本工業規格 JIS S 4001 第 5.16 号）



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 別紙2の通り			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙3の通り	
	排 出 量	別紙3の通り	t
	(これまでに実施した取組) 別紙4の通り		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙3の通り	
	排 出 量	別紙3の通り	t
	(今後実施する予定の取組) 別紙4の通り		
産業廃棄物の分別に関する事項			
① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取り組み) 別紙4の通り		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 別紙4の通り		

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙3の通り	
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	別紙3の通り	t
	(これまでに実施した取組) 別紙4の通り		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙3の通り	
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	別紙3の通り	t
	(今後実施する予定の取組) 別紙4の通り		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙3の通り	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	別紙3の通り	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	別紙3の通り	t
(これまでに実施した取組) 別紙4の通り			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙3の通り	
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	別紙3の通り	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	別紙3の通り	t
(今後実施する予定の取組) 別紙4の通り			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙3の通り	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	別紙3の通り	t
	(これまでに実施した取組) 別紙4の通り		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙3の通り	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	別紙3の通り	t
	(今後実施する予定の取組) 別紙4の通り		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙3の通り	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙３の通り	
	全 処 理 委 託 量	別紙３の通り	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	別紙３の通り	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	別紙３の通り	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	別紙３の通り	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	別紙３の通り	t
	(今後実施する予定の取組) 別紙４の通り		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が 1,000 トン以上の事業場ごとに 1 枚作成すること。
- 2 当該年度の 6 月 30 日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第 6 条の 11 第 2 号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 15 条の 3 の 3 第 1 項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が 3 以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙 1. 廃棄物処理フロー（令和6年度実績値）

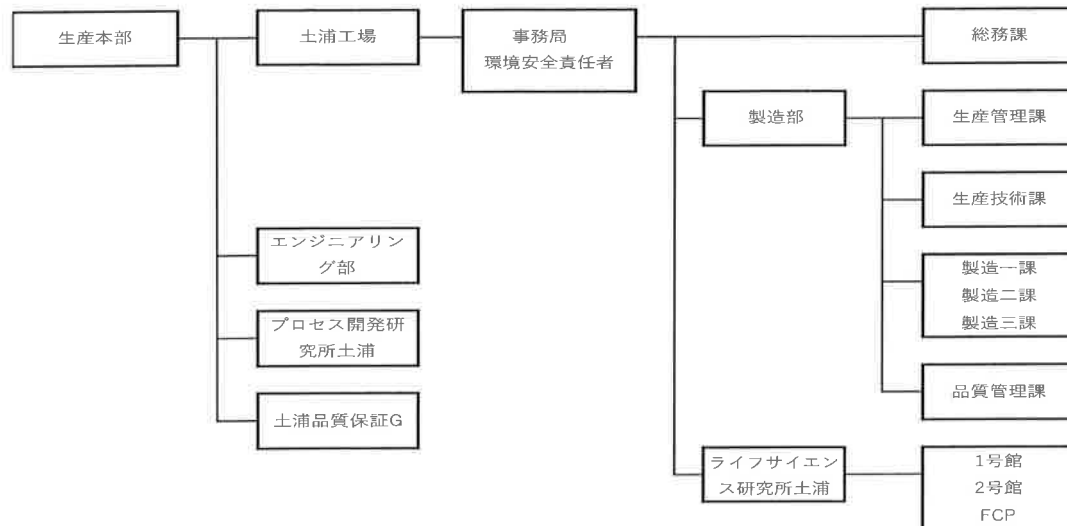
単位（Ton）

排出部署		廃掃法区分	廃棄物発生量	外部処理減量	外部リサイクル量	外部最終処分量
土浦工場内各部署 ・総務課 ・製造部生産管理課 ・製造部生産技術課 ・製造部品質管理課 ・ライフサイエンス研究所土浦 ・土浦品質保証グループ ・エンジンニアリング部 ・プロセス開発研究所土浦	⇒	汚泥（泥状のもの）	964.0	=	254.3	+ 709.7
	⇒	廃油	33.5	=	33.4	+ 0.1
	⇒	廃酸	273.9	=	0.0	+ 273.9
	⇒	廃プラスチック類	155.1	=	0.0	+ 155.1
	⇒	木くず	1.2	=	0.0	+ 1.2
	⇒	動・植物性残渣	1,810.7	=	0.0	+ 1,810.7
	⇒	金属くず	6.96	=	0.0	+ 6.96
	⇒	廃電気機械器具	0.13	=	0.0	+ 0.13
	⇒	廃電池類	0.032	=	0.0	+ 0.032
	⇒	特定有害産業廃棄物	1.48	=	0.00	+ 1.48
	⇒	がれき類	0.00	=	0.0	+ 0.0
	⇒	pH2.0以下の廃酸	0.097	=	0.000	+ 0.097
	⇒	pH12.5以上の廃アルカリ	0.061	=	0.000	+ 0.061
		合計	3,247.2	=	287.7	+ 2,959.5

※埋立て処分は0

別紙2 産業廃棄物の処理に係る管理体制について

(1) 体制図



(2) 役割

廃棄物の管理責任者には環境管理責任者が当る

※環境安全担当者（環境管理責任者）

- ①適正処理及び再資源化又は減量化に関する業務の全体を統括する。
- ②産業廃棄物の減量その他の処理に関する計画を作成し知事へ提出する。
（廃棄物処理法第12条第9項）
- ③産業廃棄物の減量その他の処理に関する計画の実施状況を知事へ提出する。
（廃棄物処理法第12条第10項）
- ④産業廃棄物管理責任者として産業廃棄物の処理に関する業務を適正に行なう。
（廃棄物処理法第12条第8項）
- ⑤法定責任者・管理責任者を任命し業務を担当させる。

・特別管理産業廃棄物管理責任者（廃棄物処理法第12条第2第8項）

○部門別役割（責任者：担当は部署長、係は係長）

※総務課（環境安全グループ）

- ①有価物・廃棄物を特定する。
- ②有価物・廃棄物の処理委託状況を把握するとともに、社外情報を収集し、他の担当・係の適正処理及び再資源化処理に関する支援を行なう。
- ③有価物・廃棄物の処理委託先視察計画策定と実施。
- ④報告書の作成とりまとめと提出。（環境管理責任者確認、工場長承認）
 - ・県外産業廃棄物の県内処分等実績報告（各都道府県・各政令市条例・指導要綱）
 - ・省資源推進業務状況報告（茨城県地球環境保全行動条例第20条第1項）
 - ・措置内容等報告書（廃棄物処理法施行規則第8条の29）
- ⑤新たな行程から新たな廃棄物が発生する場合は、適正処理方法を検討し実施する。

- ⑥廃棄物集積場の適正管理を行なう。
- ⑦廃棄物の引取業者への引渡し管理を行なう。
- ⑧産業廃棄物全体のマニフェスト管理及び照合・保管を行なう。

※製造部生産管理課

- ①土浦工場での分別排出基準を厳守する。
- ②担当内のメンバーへ分別排出の教育を行なう。
- ③担当する業務において発生する廃棄物の発生削減に努める。
- ④新たな行程から新たな廃棄物は発生する場合は、環境安全Gへ報告する。
- ⑤自職場排出物の分別排出管理及び自職場での一時保管時は飛散防止・流出防止・衛生保持に関する管理を行なう。
- ⑥廃棄物集積場への排出運搬時は、飛散・流出事故が発生しないように運搬する。

※製造部生産技術課

- ①土浦工場での分別排出基準を厳守する。
- ②担当内のメンバーへ分別排出の教育を行なう。
- ③担当する業務において発生する廃棄物の発生削減に努める。
- ④新たな行程から新たな廃棄物は発生する場合は、環境安全Gへ報告する。
- ⑤自職場排出物の分別排出管理及び自職場での一時保管時は飛散防止・流出防止・衛生保持に関する管理を行なう。
- ⑥廃棄物集積場への排出運搬時は、飛散・流出事故が発生しないように運搬する。

※製造部品質管理課

- ①土浦工場での分別排出基準を厳守する。
- ②担当内のメンバーへ分別排出の教育を行なう。
- ③担当する業務において発生する廃棄物の発生削減に努める。
- ④新たな行程から新たな廃棄物は発生する場合は、環境安全Gへ報告する。
- ⑤自職場排出物の分別排出管理及び自職場での一時保管時は飛散防止・流出防止・衛生保持に関する管理を行なう。
- ⑥廃試薬類及び有害物等の発生時は環境安全グループに報告し、物性に合った処理を行う。
- ⑦廃棄物集積場への排出運搬時は、飛散・流出事故が発生しないように運搬する。

※総務課

- ①土浦工場での分別排出基準を厳守する。
- ②担当内のメンバーへ分別排出の教育を行なう。
- ③担当する業務において発生する廃棄物の発生削減に努める。
- ④新たな行程から新たな廃棄物は発生する場合は、環境安全Gへ報告する。
- ⑤自職場排出物の分別排出管理及び自職場での一時保管時は飛散防止・流出防止・衛生保持に関する管理を行なう。
- ⑥廃棄物集積場への排出運搬時は、飛散・流出事故が発生しないように運搬する。

※ライフサイエンス研究所（土浦）

- ①土浦工場での分別排出基準を厳守する。
- ②担当内のメンバーへ分別排出の教育を行なう。
- ③担当する業務において発生する廃棄物の発生削減に努める。
- ④新たな行程から新たな廃棄物は発生する場合は、環境安全Gへ報告する。
- ⑤自職場排出物の分別排出管理及び自職場での一時保管時は飛散防止・流出防止・衛生保持に関する管理を行なう。
- ⑥廃試薬類及び有害物等の発生時は環境安全グループに報告し、物性に合った処理を行う。
- ⑦廃棄物集積場への排出運搬時は、飛散・流出事故が発生しないように運搬する。

※土浦品質保証グループ

- ①土浦工場での分別排出基準を厳守する。
- ②担当内のメンバーへ分別排出の教育を行なう。
- ③担当する業務において発生する廃棄物の発生削減に努める。
- ④新たな行程から新たな廃棄物は発生する場合は、環境安全Gへ報告する。
- ⑤自職場排出物の分別排出管理及び自職場での一時保管時は飛散防止・流出防止・衛生保持に関する管理を行なう。
- ⑥廃棄物集積場への排出運搬時は、飛散・流出事故が発生しないように運搬する。

※エンジニアリング部

- ①土浦工場での分別排出基準を厳守する。
- ②担当内のメンバーへ分別排出の教育を行なう。
- ③担当する業務において発生する廃棄物の発生削減に努める。
- ④新たな行程から新たな廃棄物は発生する場合は、環境安全Gへ報告する。
- ⑤自職場排出物の分別排出管理及び自職場での一時保管時は飛散防止・流出防止・衛生保持に関する管理を行なう。
- ⑥有害物等の発生時は環境安全グループに報告し、物性に合った処理を行う。
- ⑦廃棄物集積場への排出運搬時は、飛散・流出事故が発生しないように運搬する。

※プロセス開発研究所（土浦）

- ①土浦工場での分別排出基準を厳守する。
- ②担当内のメンバーへ分別排出の教育を行なう。
- ③担当する業務において発生する廃棄物の発生削減に努める。
- ④新たな行程から新たな廃棄物は発生する場合は、環境安全Gへ報告する。
- ⑤自職場排出物の分別排出管理及び自職場での一時保管時は飛散防止・流出防止・衛生保持に関する管理を行なう。
- ⑥廃試薬類及び有害物等の発生時は環境安全グループに報告し、物性に合った処理を行う。
- ⑦廃棄物集積場への排出運搬時は、飛散・流出事故が発生しないように運搬する。

[illegible]

別紙4 廃棄物の処理に関する事項

廃棄物の種類	これまで実施した取り組み	今後実施する取組
汚泥	RPF原料化、燃原料化、焼却後の焼却灰のセメント原料化	今後も継続する
廃油	焼却減量処理	今後も継続する
廃酸	堆肥化・飼料化・焼却後の焼却灰のセメント原料化	今後も継続する
廃プラスチック・紙くず	RPF原料化、燃原料化、焼却後の焼却灰のセメント原料化	今後も継続する
木くず	RPF減量化	今後も継続する
動・植物性残渣	堆肥化・飼料化・焼却後の焼却灰のセメント原料化	今後も継続する
金属くず	再生原料として製鉄所で利用	今後も継続する
廃電気機械器具	アルミ原料化、蛍光灯ガラス原料、ガラスウール原料化、セメント原料化	今後も継続する
廃電池類	製鉄原料化、亜鉛地金原料化、微量元素肥料化	今後も継続する
特定有害産業廃棄物	焼却後の焼却灰のセメント原料化	今後も継続する
がれき類	埋立処理	今後も継続する
pH2.0以下の廃酸	中和処理、焼却後、埋め立て	今後も継続する
PH12.5以上の廃アルカリ	中和処理、焼却後、埋め立て	今後も継続する

< 廃棄物の処理の委託に関する事項 >

廃棄物処理委託先で契約書通りに廃棄物の適正処理が実施されていることを監査を行って確認する。

< 自ら行なう廃棄物の再生利用・中間処理・埋立処分又は海洋投入処分に関する事項 >

※該当なし